

五 標準漢字表（国語審議会）

国語審議会が第六回総会（昭和十七年六月十七日）において文部大臣に答申したものである。常用漢字表の実行の状況に照らし、時運の要求に応じて選定したもので、当時漢字が無制限に使用され、社会生活上少なからぬ不便があるので、これを整理統制して、各官庁及び一般社会において使用する漢字の標準を示したものである、と同表の前書きに記されている。

全体を常用漢字（国民の日常生活に関係が深く一般の使用度が高い一一三四字）、準常用漢字（常用漢字に比べ、日常生活に関係が薄く一般の使用度も低い一三二〇字）、特別漢字（皇室典範、帝国憲法、歴代天皇の追号などの文字で、前記以外の七四字）の三種に分け、計二五二八字としたものである。簡易字体については、一般に使用せらるべき簡易字体（本体とするもの。数、乱、仮、実、独など）として七八字、一般に使用して差し支えない簡易字体（許容とするもの。仏、勞、区、寿、応など）として六四字が挙げられている。ただし、皇室典範、帝国憲法、歴代天皇の追号、詔勅を印刷又は書写する場合には、簡易字体を使用しない旨が注記されている。また、この漢字表を修正した同名の標準漢字表が、同年の十二月に文部省から出されている。これは漢字の三種の区別を廃し字数を二六六九字としたもので、その目的も「概ネ義務教育ニ於テ習得セシムベキ漢字ノ標準ヲ示シ」たものと変更された。

本資料集所収の標準漢字表（原本A5判）は、昭和十七年六月に国語審議会が刊行したものであるが、収録に当たって原本を拡大（一四一％）した。

昭和十七年六月

標準漢字表

國語審議會

一、本表ハ近來ワガ國ニオイテ漢字ガ無制限ニ使用セラレ、社會生活上少カラヌ不便ガアルノデ、コレヲ整理統制シテ、各官廳オヨビ一般社會ニオイテ使用セラルベキ漢字ノ標準ヲ示シタモノデアアル。

一、本表ノ漢字ハ臨時國語調査會発表ノ「常用漢字表」実行ノ狀況ニ照シ、時運ノ要求ニ應ジテ選定シタモノデアアル。

一、本表ノ漢字ハコレヲ常用漢字、準常用漢字、特別漢字ノ三種ニ分ケル。

常用漢字ハ國民ノ日常生活ニ關係ガ深く、一般ニ使用ノ程度ノ高イモノデアアル。

準常用漢字ハ常用漢字ヨリモ國民ノ日常生活ニ關係ガ薄ク、マタ一般ニ使用ノ程度モ低イモノデアアル。

特別漢字ハ皇室典範、帝國憲法、歷代天皇ノ御追號、國定教科書ニ奉掲ノ詔勅、陸海軍軍人ニ賜ハリタル勅諭、米國及英國ニ對スル宣戰ノ詔書ノ文字デ、常用漢字、準常用漢字以外ノモノデアアル。

一、本表ノ漢字中ニハ普通ニ行ハレテキル簡易字体ヲ採用シタ。

二

〔備考〕

一、代名詞、副詞、接續詞、感動詞、助動詞オヨビ助詞ハナルベク
仮名デ書ク。

一、外國(滿洲國、中華民國ヲ除ク)ノ地名、人名オヨビ外來語ハ原
則トシテ仮名デ書ク。

タダシ

「歐米」「独佛」「佛印」「蘭印」等ノ用例ハ從來ノ慣例ニ從フモ差支
ナイ。

一、本表ニナイ漢字ハ固有名詞ヲ除キ原則トシテ仮名デ書ク。

タダシ

仮名デ書イテハ不明ナ場合ニハ漢字ヲ用ヒテ振仮名ヲツケル。

標準漢字表

部首	常用漢字	準常用漢字	特別漢字
一部	一 丁 七 丈 三 上 下 不 世 丙	且 丘	丕
丨部	中		
丶部	丸 主	丹	
ノ部	久 乘	乃 之 乏	
乙部	乙 九 乳 乱(亂)	乞 也 乾	
丿部	事	了	
二部	二 五 井 亞	云 互 亘	
一部	亡 交 京	亦 亨 享	

人部	人仁今仕他付代令以仰 仲件任休伺位低佐住何	仇介企伊伍伏伐伯伴伸 似但佳併佻侈待依侮侯	仍佑傳
佛(仏)作使來例供便係俗	侵侶促俄俊俠俱俳俸倉		
保信修倭個倍候借假(假)	倒倚值倦倫偏偕偵偶傍		
偉停健側備催傳傷傾勳	傑傘(傘)傲傭傲債僅僕僚		
像價儀億儉優	偽僧儒償儲		
元兄先光免兒	充兆兇克兔		允兢
入內全兩(兩)			
八公六共兵具	其典兼冀		
冊再	冒		
冫部	冗冠		
冬冷	冶准凍凝		

卩部	厂部	厶部	又部	口部	<p>印危卵卷</p> <p>厚原</p> <p>去參</p> <p>及友反取受</p> <p>口古句召可史右各合吉</p> <p>同名后向君吸告周味呼</p> <p>命和品員唱商問啓善喜</p> <p>單器</p>	土部
却卸卽卿	厄厘厥	又又叔叡叢	只叫叱叶司吃吏吐吞吟	<p>否含呈吳吹吾呂咫唉咽</p> <p>哀哨哲唄竣唇唐唯啞喉</p> <p>喚喪喫嗣嘉嘗噲噴嚴囑</p> <p>(囑)</p>	<p>四回因困固國(国)圍(圉)園</p> <p>圓(円)圖(囡)團</p>	<p>土在地坂埋城堂堅報場</p>
	厥		咸啻嚮	囚圈	均坊坐坑坪垂型垣域執	

境墓增墨

士部

士壯壹(壹)壽(壽)

夕部

夏

夕部

夕外多夜

大部

大天太夫失奉奧

女部

女好如妃妙妨妹妻姉始

姓委委威娘婚婦

子部

子字存孝孫學(学)

宀部

宅守安完宗官定客宣室

培基埼堀堆堤堪塤塊塔

塗塞塵塾墜墮墳墾壁壇

壓壘壞壤

夙夢

夙夷奇奈奏契奔奢奪獎

奮

妊妥姦姪姬姻娛娠婆婿

媒媛嫁嫌嫡孀

孔孟季孤暉

宇宏宙宛宜宸寂寡寧審

寔寰

寸部	小部	尤部	尸部	巾部	山部	ㄩ部	工部
宮害宴家容宿寄密富寒 察寢寔(實)寫(写)寶(宝) 寸寺封射將專尉尊尋對	(對)導 小少	就	(屬) 尺尾局居屈屈屋展履属		山岡岩岸峰島崇	川	工左巧差
寬寮	尖尙	尤	尻尼尿屍屏屑屢層	屯	岐岬岬峻峽崎崩岳(嶽)	州巡巢	巨
	尠				峨嵯		

彡部	弓部	弋部	廾部	廾部	广部	幺部	干部	巾部	己部
形影	弓引弟弱張強彈	式		延廷建	康廢(廢)廣 床序底店府度座庫庭庶	幼	平年幸幹	帽 市布希帝帥師席帳帶常	己
彩彫彰	弔弘弦弧弼彌(弥)		弊		廉廊廓廠廳	幻幽幾	干	巾帆帖幅幕幡幣	己
	彊				庇				

彳部

役往征待律後徒得從御

彼徐徑(徑)循微徹

復徵德

心部

心必忍志忘忠快念怒思

忌忙忝忽怖怨怯恒恢恤

恃恪悖

怠急性怪恐恥恩息悔悟

恨恭悅悉悠患悶悼惑惟

悚俊悖

悲情惜惠惡想意愛感慈

惰惱愁愉愚慎慌慕慘慢

惶愆憚

態慣慰憲懇應(応)

慨慮慶慾憂憎憐憚憤憩

懿

戈部

成我戒戰

戈或戚戮戲戴

戊

戶部

戶所

戾房扇扉

手部

手才打扱承技投折押拂

托扶批抄抑抗披抱抵抹

攬攬

(扌)拔招拜拾持指振捕捨

抽拍拒拓拘拙括拭拳撈

授掛採探接控(扣)損擊操

按挑挨挫挺挽抄捧据捺

方部	斤部	斗部	文部		支部	支部	
方 施 旅 族 旗	斤 新 斷(斷)	斗 料	文	敬 敵 敷 數(數) 整	收 改 攻 放 政 故 教 救 敗 散	支	擴
於 旋	斥 斬 斯	斜		敘 敏 敢	擬 擾 攝	撮 撰 撲 擁 扞(捍) 担(擔) 據 擦	掃 掌 排 掘 掠 推 掩 措 揃 描 提 插 揚 換 握 揭 揮 援 搖 搜 搬 携 搾 摘 摩 摸 撚 撤 撫 播
				斐			

无部

日部

日部

月部

木部

日旨早昇明易星映春昨

昭時晚晝(昼)普景晴暑暖

暗暮暴曇曜

曲書替最會(会)

月有服望朝期

木未末本札机杉材村束

柿杯東松板林枚果枝柄

染柔查柱柳栗校株根格

桃案桐桑梅條(条)梨械棒

森椀植楠業極榮(采)構樂

標樣橋機橫檢櫻權(權)

既

旦旬旭旱旺昂昆昌昔是

晶智暇暫曆曉

曳更曹曾

朋朗

朱朴朽李杖杜析枕枯架

柏某柑枢柴柵枋桤核栽

桶梁梯棄棉棋棚棟棺椅

楮楷槍榭概槽榑樓樞(枢)

樟模樹樺樽橘櫃檀檄檜

(桧)櫓櫛欄

曩

朕隴

桓

父部	爪部	火部	混清淺(淺)減渡温港湯源 準滅滿(滿)漁演漢沢(澤)激 濟(濟)灣(灣)灣
父	爭爲	火灰災炭無然煮煙照熟 熱燈燒營(營)	淋淑淡淨淳淵(淵)添渙渠 渥渦測渴湊湖湧溜(溜)溝 溢溪溶溺滋滑滯滴漂漆 漏漑漕漠漫漬漸澆(澆)潔 潛瀉潤潮潰澁澄澱濁濃 濕濫濯濱瀘瀆瀕瀧(瀧)瀨 瀾灌(灌)
爪爵	燭爆炉(爐)	灸炊炎烈烏烹焦焰煉煎 煤煩煽熊熔燃燐燕燥燦	
爰	炳		